

地衛研における麻疹検査診断推進 のための取り組み

国立感染症研究所 ウイルス第3部
駒瀬勝啓

麻疹排除の定義 (WHO)

- 適切なサーベイランスのもとで、常在性のウイルスによる麻疹症例が12ヶ月間以上ないこと

常在性の麻疹ウイルスがない状態とは(排除状態)

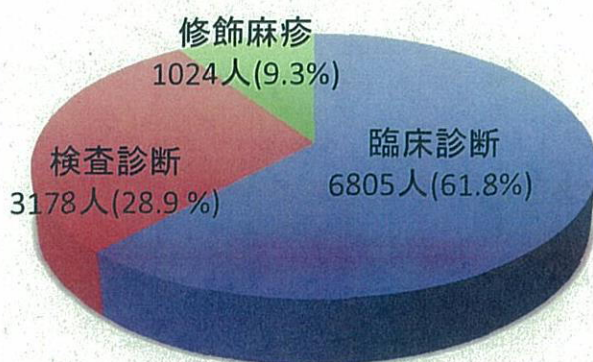
1. 麻疹発生率 年間人口百万人あたり1人未満
2. 麻疹ウイルス 輸入ウイルスによる症例のみ
3. 流行の規模 10人未満の流行が80%以上
4. ワクチン接種率 2回接種ともに95%以上
(人口の95%以上が免疫を持っている)

WHOが提唱するサーベイランス体制に 対する我が国の対応

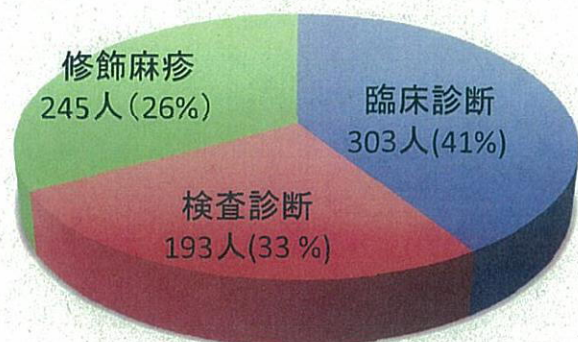
- 全数報告制 ← 2008年1月より導入
- WHOに認定された組織による実験室診断
(National Laboratory: 感染研を中心とした検査体制)
← 地衛研・感染研による検査診断ネットワーク
- WHOの示すindicator(指標)を目標としたサーベイランス精度
- 麻疹IgM抗体測定(ELISA法)による診断
← RT-PCR、ウイルスゲノム検出
- 麻疹ウイルスの遺伝子型を同定し、流行しているウイルス型を把握し、その結果を適切にWHOに報告する
← RT-PCR、塩基配列の決定

麻疹病型別割合

2008年(N=11,007)



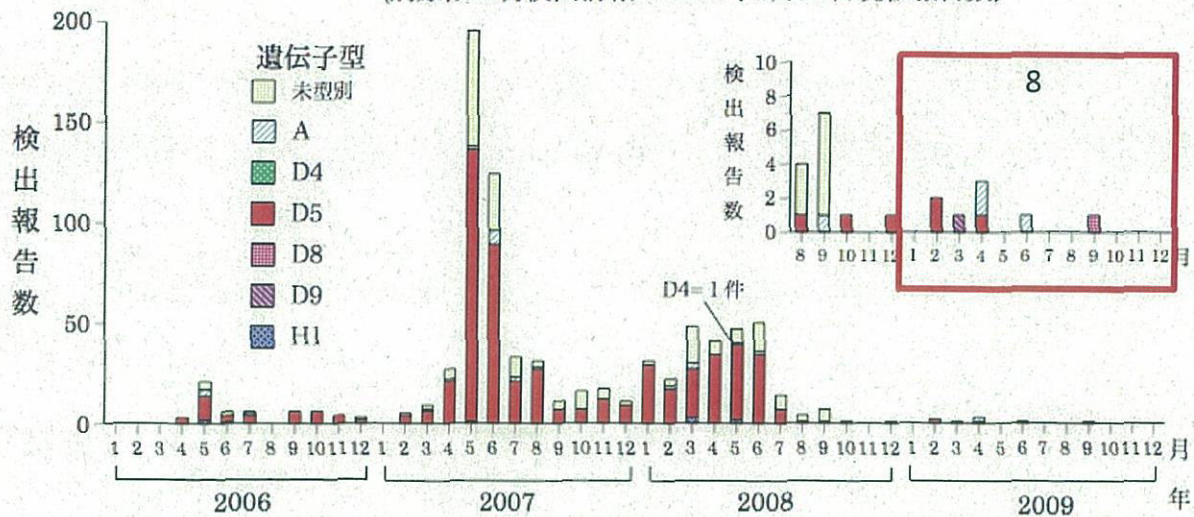
2009年(N=741)



修飾麻疹: 麻疹ウイルスに対する免疫を不十分ながらも保有したヒトが麻疹ウイルスに感染する事により起こる麻疹、通常の麻疹より軽微な症状を示す。修飾麻疹の届出には麻疹の届出に必要な病原体診断のいずれかを満たす必要がある。

病原微生物検出情報による麻疹報告数

図1. 月別麻疹ウイルス分離・検出報告数、2006年1月～2009年12月
(病原微生物検出情報：2010年1月29日現在報告数)



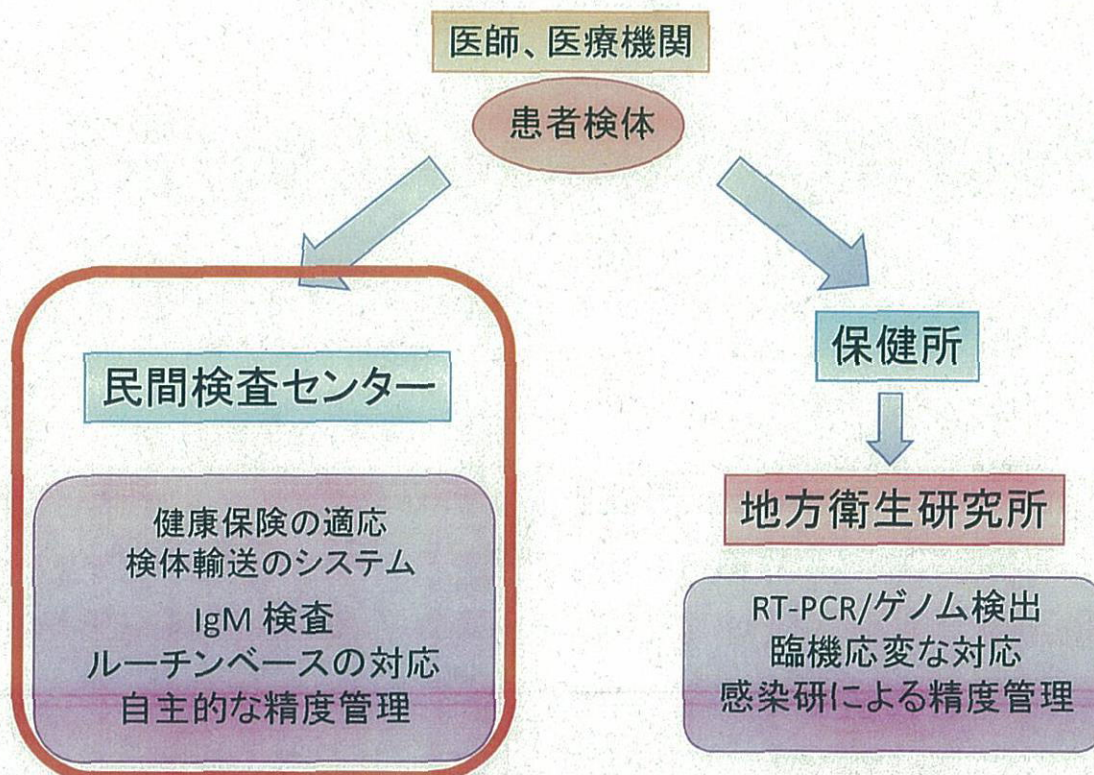
* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

IASR

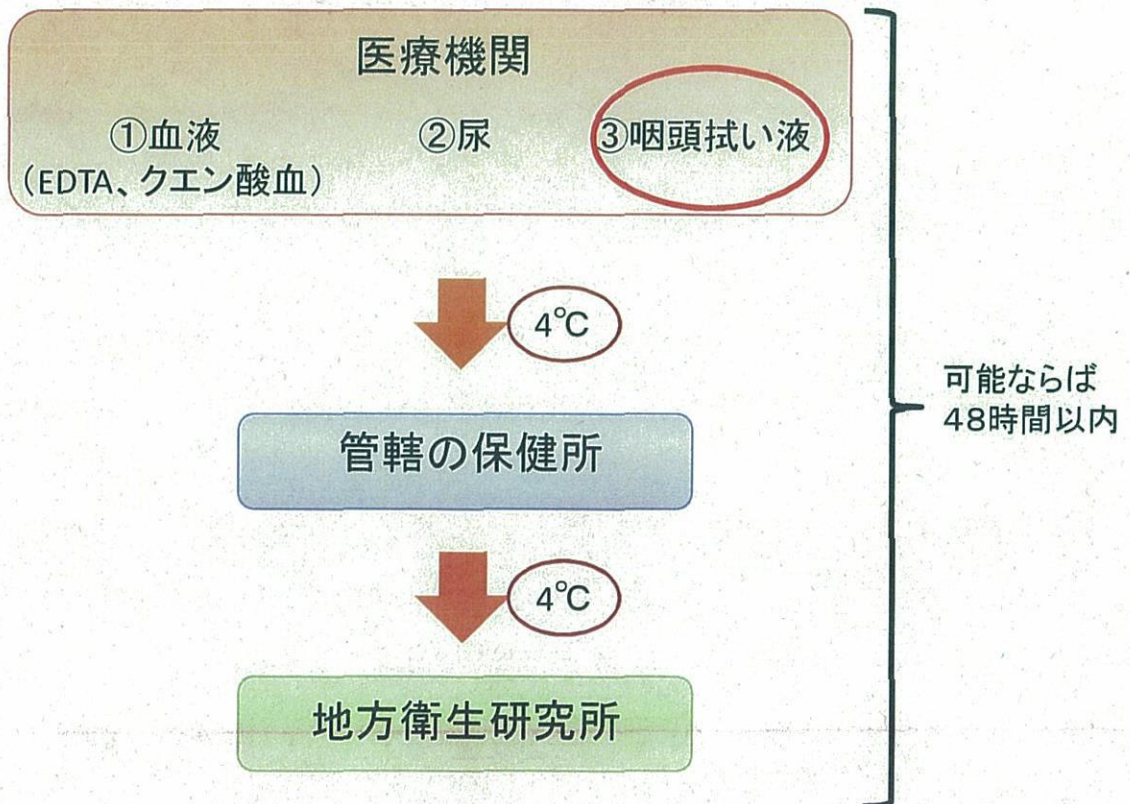
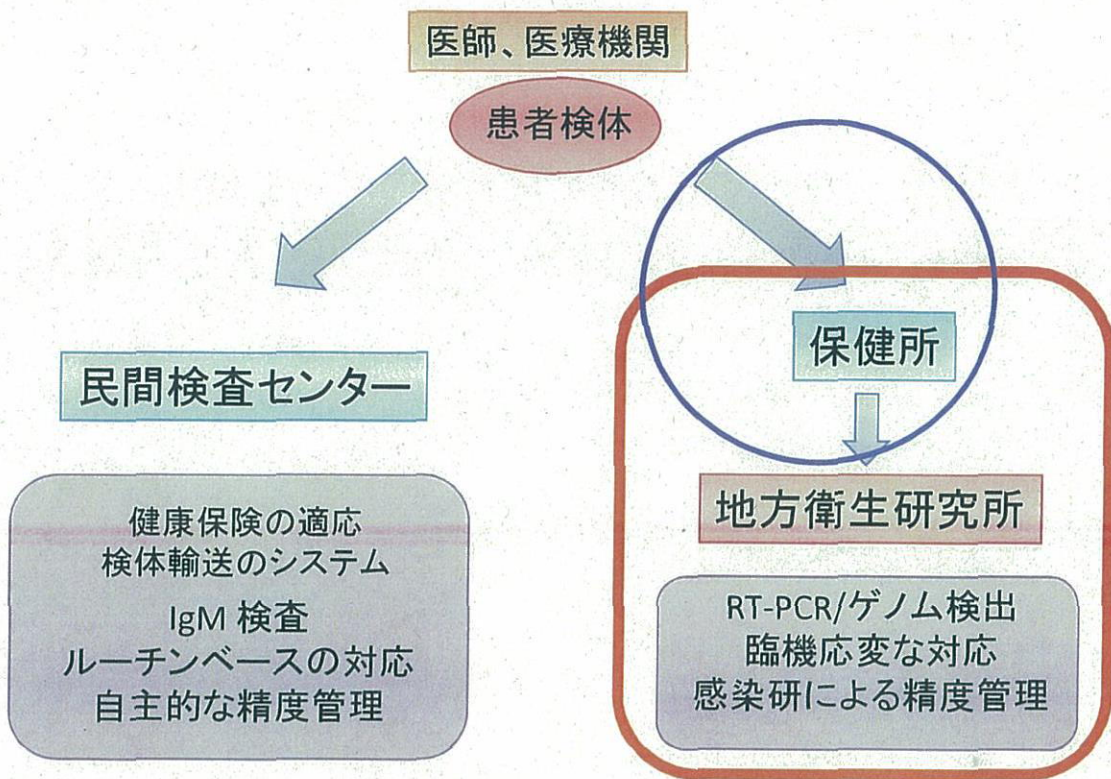
Infectious Agents Surveillance Report



麻疹検査診断フローチャート図



麻疹検査診断フローチャート図

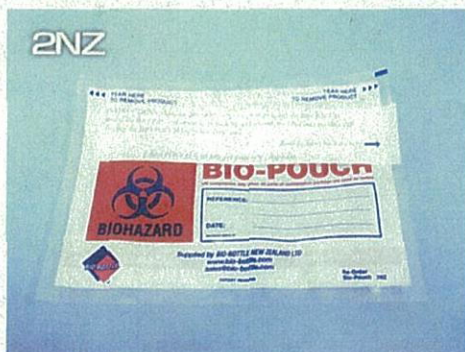


地衛研への検体搬入促進のための試み — 厚生科研費補助金事業(岡部班)による —

- 保健所に咽頭拭い液採集・輸送用培地を配布
- 保健所に、冷蔵環境で検体を輸送できる容器を配布(バイオセーフティ対応)
 - 宅配業者等を利用した検体搬送を可能にする
- 地衛研に搬送された検体数で今回の試行の効果を検証

保健所に配布する輸送用容器、保存液

バイオパウチ



輸送ケース
(冷蔵、冷凍用)



ユニバーサルバイラルトランスポート



課 題

- 保健所、地衛研へ
全数麻疹検査診断を実施する行政上の根拠の提示
- 医療機関への周知
 - 麻疹検査診断の重要性、必要性
 - 地衛研による麻疹検査診断の実施
- 技術的な課題
医療機関等に輸送用培地を配布するタイミング、方法等